

感染性胃腸炎が流行しています！

感染性胃腸炎特集号 2010.2.23 保健室

大阪府では今年に入ってから、ノロウイルス等による感染性胃腸炎の集団発生の件数が増えています。大和川高校でも保健室へ吐き気・腹痛・下痢を訴えて来室する人が増えています。

感染性胃腸炎は、細菌、ウイルス、寄生虫など多種多様な病原体による感染症で、主な症状は、おう吐、下痢、腹痛、発熱です。

原因となるウイルスの代表的なものは、「ノロウイルス」、「ロタウイルス」などがあります。ヒトからヒトへの感染力は強く、10～100個の少ないウイルス量でも感染します。1年を通して発生していますが、特に冬から春に多発しています。

多くがノロウイルス

- 主な症状は、下痢、おう吐、吐き気、腹痛ですが、発熱する場合があります。症状がひどい場合には、脱水症状を起こすことがあります。
- 感染してから発病するまでの潜伏期間は、平均1～2日（短くて数時間～数日）
- 通常は軽症で、症状が1～3日続いて回復します。

感染経路

(1) ヒトからヒトへの感染

感染者のおう吐物や便を触った手や、手でふれたものを介して口に入り感染します。また、おう吐物の飛沫から感染する場合があります。

(2) 汚染された水、食品からの感染

食品からの感染で多いのは貝類によるもので、汚染された貝を生や、加熱が不完全なまま食べることで感染します。

感染性胃腸炎にかかったら

特別な治療法はありません。治療は点滴、整腸剤等の対症療法に限られます。脱水を防ぐために、水分補給や安静が必要です。

2次感染を防ぐために、手洗いをしっかり行って、吐物で汚れたものは塩素系漂白剤をうすめた液で消毒してください。

感染予防のポイント

手洗い

食中毒の予防

おう吐物、便の処理

日頃からの健康管理